

福祉のしゃべり場 報告

第15回 10月28日(土) 13:30~15:00
 東京YWCA会館215室 参加者 9名
 テーマ「なんでも話して聴きあおう
 あなたが主役の福祉のしゃべり場」



お互いの現状を出し合いました。共通だと感じたのは、利用者を思う心や相互交流が欠けてくると悲しい現実を生むことがあるということ。

現場の人員不足から生じる様々な困難がある人、また、自分なりの目標と普遍的で大切なものを持つことで、転職するのではなく働き続けよう考えているという心強い話もありました。

10月生まれの参加者2人のスペシャルお誕生会も開催されました！

次回「第16回 福祉のしゃべり場」
 ご参加お待ちしております
 2024年 2月17日(土)
 13:30 ~ 15:00
 会場 東京YWCA会館
 参加ご希望の方は、HP お問い合わせのページからお申し込みください。

講演会のお誘い「死を前にした人にはあなたは何ができますか？」
 ~ユニバーサルホスピスマインドを全ての人生のそばに~
 講師 医師 小澤竹俊氏

日時：2024年3月16日(土) 14:00~16:00 東京YWCA カフマンホール

ユニバーサルホスピスマインドとは、「誰もが答えのない心の問題に出会うとき、たとえ死を前にしても穏やかにいられる心の育み方。死と向き合うホスピスの現場で培われた心」のことです。大切な人に、そして自分自身のケアができるマインドです。

緩和ケアを受けつつ癌と共に生きている方、年齢を重ねて介護の必要な方、頑張りたくても頑張れない。

その中には悲しみ苦しみや不安が渦巻くことがあると思います。周囲もどうしてよいか分からなくなり、向き合えなくなることがありますね。

専門職であっても、苦しむ人や助けを求める相手にどうしてよいか分からず、自分が嫌になることはありませんか。どうなっていくのだろうかと心配、そんな方に役立つ講演会をと思い企画しました。一緒に小澤先生のお話を聴いてみませんか？
 (講演会担当：理事 蛸原)

会員交流広場 Salon de Y Y

YWCA 会館の玄関先で専門学校 CW 卒業生から声をかけられました。彼女たちは10年ぶりの再会をYで待ち合わせ。私との突然の出会いは素敵なプレゼントでした。

現場の厳しさは半端でないが、働き盛りの面々は、仕事、家事、子育てに頑張っている様子で何とも頼もしい。卒業生の訪問いつでも大歓迎です。(事務長石井)



新規会員募集中 お問い合わせはHPより

会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000円/年 賛助会員 一口 10,000円/年
 団体会員 20,000円/年

◆株式会社ゆうちょ銀行 記号 10170 番号 80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行所 特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号

東京YWCA会館216室

TEL 03-6273-7134 FAX 03-6273-7156

HP <http://ywca-hssc.org/> [東京YWCAヒューマン] で検索

2023年12月25日~2024年1月4日冬季休業いたします。



特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

27号
 2023年12月

私たちは、福祉・介護の仕事の

ゆたかさを広げる活動を推進します



理事会のご報告

特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター-理事長

田島 誠一

10月20日第37回の理事会を開催しました。理事会は、①2023年度上半期の事業報告、②同実績(財政)報告についてでした。

コロナウイルス感染症の5類への引き下げによって、福祉施設の規制が緩やかになりつつあり、法人の主要な事業である講師派遣事業は、対面での研修が可能となりました。オンラインでは感じにくい受講者の息づかいを身近に感じられながら、研修を進められることに感謝と喜びを感じています。

保育士等キャリアアップ研修は、保育士のキャリアアップを見据えた研修機会の確保と処遇改善のため2017年度から始まりました。当法人は東京都における研修開始時から受託してきました。この数年、コロナ禍の影響で対面での研修需要が減少し悩まされてきましたが、今年度徐々に回復傾向を示し、下半期の申込状況は約80%程度と推移しております。

福祉のしゃべり場や広報活動も計画通り実施でき、数年ぶりに活気の感じられる状況になりつつあると言えます。

このような事業展開により、上半期の収支状況を踏まえて予想する年度決算は、講師派遣事業収入が予算達成をする結果、黒字を確保できる見込みとなっています。

厳しい環境の下で、上半期を乗り越え年度末に向けて明るい光が見えていることに、感謝申しあげ、法人の理念である、働く人の成長を支援し、仕事のゆたかさを広め、利用者へのより質の高い支援の実践が広がることを目指してまいります。



特集 継続研修を行っている3つの法人様から、

社会福祉法人 大田区社会福祉協議会 様

社会福祉協議会は、社会福祉法第109条に基づいて設置された民間団体です。すべての市町村にある社会福祉協議会(社協)は、地域福祉の推進を図ることを目的として、様々な事業に取り組んでいます。

大田社協は、地域の皆さまや関係機関・団体、行政や福祉サービス事業者などさまざまな方との連携・協働のもと、「持続可能な社会」の実現に向けて、地域福祉の推進に取り組んでいます。

1. ヒューマンサービスサポートセンターへの依頼内容と期待すること

大田区社会福祉協議会では、令和2年度より職員の人材育成を目的とした職員研修計画を依頼しています。また令和5年度から、経営計画の策定支援を依頼しています。

福祉の専門職と組織活動の両側面からのプログラムに基づき、チームワークや企画立案能力の向上等、専門職としての一層の成長を支援していただきたいと考えております。また、社協が地域福祉を推進する中核的な団体として、持続可能な組織であるために、取り組むべき重点項目の洗い出しや具体的な取り組みについて、アドバイスをいただいています。

2. 成果として感じる事

複雑化多様化した地域の課題に対応するために、社協職員として「地域におけるネットワークづくり」や「チーム支援」、「課題解決に向けた新たな取り組みの提案」など、福祉の専門職に求められる役割も多岐にわたります。

田島先生に現状を相談し、研修の進め方や内容などについて、アドバイスをいただきました。職員研修を通じて、あらゆる部署の職員同士が、お互いを知りあうことができ、係間での話し合いを進めやすくなりました。また、様々な視点から意見を交わし合うことで、多様な意見や価値観を取り入れながら考えることの重要性に気がつくことができました。



3. プロジェクトメンバーや研修参加者の声

研修に参加した職員からは「一つの事業(企画)を作り上げる作業について、意見を出し合いながら、どうまとめていくかを考えていくプロセスが、通常の業務に重なる部分があり、とてもいい経験ができた。」など、次の実践につながるような感想が寄せられました。

また、経営計画のプロジェクトメンバーからは、「自分の組織の弱みや強みなどの現状を把握し、職員全体で共有できる場を持つことが重要だと感じた」などの声が寄せられました。

4. ヒューマンサービスサポートセンターに望むこと

重層的支援体制整備事業が本格実施となり、地域における複雑化した課題に対応できる職員と、その職員をバックアップするための組織体制づくりが求められています。

これまでも当社協の人材育成に関する課題や組織経営に関する課題を相談しながら、その時の課題に応じた研修を実施していただいています。これからも、組織の状況に合わせた研修の実施について、幅広く対応していただけると幸いです。

(法人運営センター係長 根本様)

講師からのコメント

「人々の信頼と協力に基づいて、豊かな福祉社会の実現を」という基本理念に基づき、地域ぐるみの福祉活動を広げようと奮闘されています。地域福祉コーディネーターによる助け合いの仕組みづくりなど先進的な働きが注目されてきています。当法人は経営改善や人材育成に関わってきました。人口74万人を擁する大田区の福祉発展のためのお手伝い、これからも頑張ります。(田島 誠一)



3. 研修参加者の声

*子どもの居場所として大切に考えています。何らかのニーズのある子、外国にルーツのある子、家庭に困難を抱える子も通っています。どの子も排除されることなく、いろいろな参加の仕方が可能であること、しっかりと対話を通じて子どもの意見に耳を傾け子どもが自分の意見が何らかの形で実現していくことが実感できるような環境を目指したいです。

*4年目となった研修では、特に昨年度から今の自分を振り返り、子どもとの関わり方をもう一度考えることが出来た。普段から子どもにとって安心できる存在でいたいと考えているが「聞いてくれた」「伝わった」「話してよかった」と思える職員になるために、子どもの話をきちんと聞き、一人の人間として向き合いたいと思った。

*学校では頑張っていて評価されている空間にいるので、学童の職員は子どもたちがのんびりできる空間作り、信頼を作ることが大切だと感じた。ロールプレイングでは、黙って聞くことを実践したところ、普段の自分はすぐに質問したり意見していることに気付かされた。

*ひとつ聞き方が違うだけでも、話してくれる内容が変わるなどとても難しいことなのだと感じました。実践を通して行うことで聞き方のイメージをつかむことができました。また他の人が聞いているのを観察することにより新しい発見があり、とても勉強になりました。

*ほめるよりも当たり前のことを認めて肯定的なメッセージを伝えること。聴くことを意識したり、声を掛ける前に肯定的な言葉で~と思うだけでひと呼吸おけて、感情が落ちついて冷静になれると気づいた。



みんなでアート



園庭でボール投げ

4. ヒューマンサービスサポートセンターに望むこと

研修に対する願いを事前の準備会でも拙い言葉から汲み取って頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。

福祉現場の職員がバーンアウトすることなくまた研修を通して力を付けて、明日もまた向き合おうと思えるように…引き続きサポートをどうぞよろしくお願いいたします。

(統括責任者 近藤様)

研修のねらいとその成果などを伺いました。



社会福祉法人 愛隣会 様



昭和 20 年に設立された高齢者、障害者、子ども福祉事業を展開する総合的な社会福祉法人。
年間 10 回の新人研修を 2014 年からヒューマンサービスサポートセンターが担当しています。
今年は、養護老人ホーム・知的障害者入所、通所施設、児童養護施設、保育園の新人職員 15 名が参加しています。
今回、法人研修担当の北村様からお話を伺いました。

1. 新人研修のねらいと研修への期待

- 1) 新人研修のねらいは、1年間の研修を通して、社会福祉法人愛隣会職員としての自覚を高め、愛隣会の理念に基づいた実践をめざし、新人職員として必要な基礎的知識と態度を習得し、自己理解と他者理解を進め、福祉職員としての土台を築く機会とすること。
- 2) 年間を通して継続した研修を受けることで、他部署の職員との繋がりを築き、それぞれの施設特有の支援の課題などや共通する課題を確認し、解決策など共に考え共有することができるようになることを期待している。また、視野が広がり、多様な見方、価値観を知り、職場は違っても、同じような悩みを持ち共に頑張っている同期の職員としての関係を深めることを期待している。

2. 成果として感じること

継続研修のため、月1回の研修への参加を楽しみにしている方も多い様子で、明るい表情で、意欲的に参加している。研修での学びを深めることで、仕事に対する自信や、やる気に繋がっているように思われる。振り返りシートなど、講師からフィードバックを受けることで学びを深めているようである。

3. ヒューマンサービスサポートセンターに望むこと

年間計画で研修日程が決まっているが、各施設のシフトの関係で、研修を欠席せざるを得ない場合がある。欠席者に対するフォローをどのような方法で行うのがよいか、協議し、実現可能な方法を検討していただきたい。可能な方法としては、テキストを読んで講師の出す課題にこたえる形にすることを検討依頼中。

研修受講者へのアンケート結果 11月研修終了後アンケートに答えいただきました。

「研修に対する満足度」 14 人中 11 人が「大変満足」「満足」と回答。「どちらともいえない」と 3 人が回答。その内容は、「業務を離れて学ぶ機会が得られた」、「他の事業所の状況を理解できるようになった」の回答が半数を超える。「事前課題や振り返りシートが負担」と 6 名が回答。他方には、「大変ではあったが記入することで振り返りにもなり記録にも残るので結果的にはやって良かったと思います。」との意見があった。



「研修が仕事に活かされているか」 受講者の様々な思いを寄せいただきました。

*自分の仕事を客観的に振り返ることができる。*自分と向き合うことができ、大切にしている価値観を知ることができた。*意識的に自分を振り返ることができるようになった。*“人”に接する職業において実践的なコミュニケーション術や考え方などを学ぶことができた。*グループワークなどで自分以外の意見にも触れることができ、多方的視点から自分の仕事について見つめ直すことができた。

*コミュニケーションをとるのが大変な利用者さんとの関わり方を考え直したり、伝えづらい事を伝える時に伝えやすくなった。*普段の勤務を振り返り、法人の理念とどうつながられているか等考える事が出来た。*子供と対話する際の工夫(受動的.能動的)ができ、良好的な関係の構築を目指すことができた。*福祉の仕事のマインドの持ち方を学ぶことができた。*エニアグラムを学び自己理解他者理解を考えることで、今よりもっと利用者に向き合っていくと思えるようになった。また、人権に対する意識を常に持って仕事に望むことの大切さを知った。

公益財団法人東京 YWCA 学童クラブ・放課後子ども教室あそびバ 様

東京YWCAは、調布市の運営委託を受けて、2009年市立民営の『わいわい学童クラブ』をスタートさせました。

東京YWCAが運営する学童クラブとして、「一人ひとりをかけがえのない価値ある存在として大切にかかわりながら、子どもたちにとり安心・安全な第二の家庭となること」を目指し進めています。

2015年からは、『2つの学童クラブ』と『3つの放課後子供教室YWCA』が加わり、職員の人数も6倍になり、YWCAの理念やスピリットを体現しつつ、隅々まで行き届く育成をするために、「チームビルド」「個とチーム」「子どもに向き合う職員として大切にしたいこと」「現場に求められること」「マネージメント力 up」等職員の研修を積み重ねて来ました。

1. 研修のねらいと期待

子どもたちや育てる環境は大きな変化の中にあります。家族背景や子どもたちの発達や個性の違い、国籍の違いや家族の貧困、また授業へのタブレット導入やアプリを使っての保護者とのやり取り等特にここ数年で大きく様変わりしました。

一方、学校への行き渋りや生きづらさをかかえる子どもたちが増加しています。課題が多様化する背景を受けて、職員間もお互いを知り、コミュニケーション力を付け、課題に向かって深めていく人を育てることをねらいとして、非常勤職員を含めた全職員の研修に取り組んでいます。

2. 成果として感じること

より良いチームを作るために、2020年から4年間「コミュニケーション」に特化した研修を実施しました。1年目の「エニアグラム」の研修は、人が生まれた時から持つ9つのタイプを学びました。それぞれのタイプが大切にしている価値観を知ること、自分とは違う仲間の価値観を認めていくことで、自己理解を深める機会となりました。

2年目「アサーション」の研修においては、否定的感情をもっている時に言いがちな言い方、否定されない時の心地よさをワークを通して学び、更に心が通う信頼関係を築きながら、日頃の慌ただしい日々の中ではなかなか出来ないわたしメッセージの大切さをより意識することが出来ました。

2022年には「聞く・話す コミュニケーション」の基本をワークの積み重ねから学び、2023年9月の研修「子どもの育ちを支える居場所の力」では、多様な子どもがいる現状の中で、どの子どもも安心して自分らしく居られる場、認め合える場、生き活きと成長できる場(インクルーシブな環境)を学ぶ機会となりました。続く11月の研修「受け止める聞き方・聴き方、子どもが話せる声かけ」では、子どもたちに届く声かけを繰り返し学ぶ実践の時間が職員に深い気づきのワークとなりました。

研修後に職員の言動が大きくすぐに変わることは難しいことですが、職員が少しずつ意識していることと努力を続けていることが研修後の日々の中で感じ取れます。子どもたちに向かう際にも、意識しようとする様子が見て取れます。

走っている子どもに走らないではなく「歩きましょう！」

の言葉かけを聞く時に研修の成果だと嬉しい気持ちになります。

梅の収穫

